

「第2次防府市教育振興基本計画（案）」に対するパブリックコメント（意見募集）
の実施結果

1. パブリックコメント概要

意見募集期間：令和2年12月23日（水）～令和3年1月21日（木）

意見提出者数：4人

意見提出件数：14件

2. 意見等の対応区分

A：意見を受けて加筆・修正したもの	1件
B：事業実施にあたって考慮すべき事柄として参考とするもの	0件
C：既に記載済みまたは対応済みのもの	0件
D：意見を反映することが困難なもの	13件
E：その他	0件

3. 提出された意見に対する市の考え方

【意見提出の項目について】

No.	項目／意見	意見に対する市の考え方	対応区分
1	<p>第3章 1本市教育のめざす姿 「教育のまち 日本一」</p> <p>「日本一」と掲げる思考は、「全ての市町の中でトップ」、つまり競争に打ち勝って一番を目指す、と捉えられ、しかし、他者との競争を幼少期から絶えず強いられる人間は、結局は他者との比較でしか自分を見いだせない、ある意味とても弱い存在である。自分の内面での成長を大人からそのまま認められる人間は、自分のありように自信をもって生き、他者の出来不出来に左右されずに生きられる。その生き方こそ、本当に自分の人生を楽しみ、充実させる生き方ではなかろうか。</p> <p>コロナの影響で、今まで以上にひきこもり、自殺が増えている。そんな世の中で、自分に信頼を置き、他者としっかり繋がれる人は強い。そんな強さを持つ人を育てようとするなら、「日本一」などという陳腐なスローガンは止めて、「教育のまち だれから子どもが愛されるまち」などの方がよほど市民によく伝わると思うがいかがだろうか。</p>	<p>教育委員会では、子どもたちが、豊かな自然と文化・歴史に恵まれた防府のまちのことを大好きになるような教育施策を推進しています。</p> <p>その上で、保護者はもちろん、防府に住む全ての皆様が「防府は教育を大切にしているまちだ」と心から思っただけ、そのような状態になることこそが、「教育のまち日本一」になる、ということであると考えています。</p> <p>今後も、「教育のまち日本一」を念頭に置いて教育施策を推進して参ります。</p>	D

2	<p>第3章 1本市教育のめざす姿</p> <p>13項【めざす人の姿】の、下から3段落目の次の一文がごちゃごちゃして分かりにくいです。↓の後のように直してはいかがでしょうか。</p> <p><u>「困難な状況を乗り越えていく経験からの達成感や、人の心の痛みや思いを受け止めながらも共に生き抜いていく喜びを感じとることができる人たちによって、安全・安心で豊かな社会が創られていきます。」</u></p> <p>（「達成感や」は、直後に「人の心の痛みや思いを…」と続くせいもあって、どこにつながるのか分かりにくい。また、「受け止めながらも」は逆接表現だが、「人の痛みや思いを受け止める」ことは決して悪いことではないので、ここを逆接にするのはおかしい。「生き抜いていく」も「生き抜く」の方が簡潔でよいのでは？）</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><u>「困難な状況を乗り越えていく経験から得た達成感を支えに（or 力に）、人の心の痛みや思いを受け止めて、共に生き抜く喜びを感じとることができる人たちによって、安全・安心で豊かな社会が創られていきます。」</u></p>	<p>P13【めざす人の姿】のご指摘の一文について、文章の意味を理解しやすくするために、</p> <p>「困難な状況を乗り越えていく経験からの達成感や、人の心の痛みや思いを受け止めながらも共に生き抜いていく喜びを感じとることができる人たちによって、安全・安心で豊かな社会が創られていきます。」を</p> <p>「困難な状況を乗り越えていく経験から達成感を得ること、また、人の心の痛みや思いを受け止めて、共に生き抜いていく喜びを感じとることができる人たちによって、安全・安心で豊かな社会が創られていきます。」に修正します。</p>	A
3	<p>第3章 2基本目標</p> <p>21世紀をたくましく生き抜く「人材」の育成</p> <p>ウィキペディア（Wikipedia）によれば、「人材（じんざい）とは、才能があり、役に立つ人物。すなわち社会に貢献する個人のこと」とある。逆説的に言えば、「才能が無く、役に立たない人物、社会に貢献しない個人は生きるにあたいしない」のか。経団連の言うがままに、このような「人材」育成目的の教育をすすめてきた結果が、多くの不登校児・生徒を生み、生きるに値しない自分を自ら抹殺してしまう風潮を生み出しているのではないのか。</p>	<p>教育委員会では、才能があり、役に立つ人物だけの育成を目指すのではなく、一人ひとりの個性や可能性を伸ばし、個々に応じた様々な分野で活躍できる人物の育成を目指し、各種教育施策を推進して参ります。</p>	D

	<p>人は、この世に生を受けて、かけがえのない無二の存在として成長していく。そこに存在するだけで価値あるものとして、社会が認めるべきである。憲法に記された人間観は、決して競争に打ち勝ち、他者を支配する人を育てる仕組みとしての教育を想定してはいない。</p> <p>「人材」育成には反対である。</p>		
4	<p>第3章 2基本目標</p> <p>「たくましく生き抜く」</p> <p>ひとりで勝ち抜く、という意味合いが強く、ここには他者との共同の思想がない。他者を競争相手ではなく、共同・連帯する仲間として構想しなければ、教育の現場で、意識するはずがない。「他者につながる心地よさと大切さ」を概念に入れ込むことが必要と考える。</p> <p>国の計画にも「一人一人が活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現」とある。他者と安心して生活できるというその感覚の醸成が子どもの頃から必要ではないだろうか。</p>	<p>本計画では、本市教育のめざす姿として「まちな姿を教育のまち日本一」、「人の姿を①学びを楽しみ、変化に立ち向かう人、②強さと優しさを備え、他者と協働して未来社会を創造していく人、③ふるさとを愛し、未来につなぐ人」、と定めています。</p> <p>そして、この本市教育のめざす姿を実現するため、「21世紀をたくましく生き抜く人材の育成」を基本目標として掲げ、変化が急速で予測が困難な時代を、周りの人の人生も含めて、主体的により良い方向へ進み続けるという強い意志を持って生き抜く人材を育成することを目指すこととしています。</p>	D
5	<p>第3章 2基本目標</p> <p>14項の「21世紀をたくましく生き抜く人材の育成」のスローガンは、今回示された「本市教育のめざす姿」を十分に反映していないように見えます。提案があります。</p> <p>教育基本目標については、13項の【めざす人の姿】でも「強さと優しさを備え、他者と協働して未来社会を創造していく人」の育成が謳われています。つまり、防府市が目指しているのは、たくましさ（自己の強さ）と他者と協働する優しさの、二つの美点を合わせ持つ人材の育成と理解できます。これに引き比べると、上のスローガンでは、後者の「他者と協働する優しさ」の理念が抜け落ちているように思われま</p>	<p>基本目標については、No4をご参照ください。</p>	D

<p>す。『いやいや、この理念は、【めざす人の姿】にも説明してあるとおりで、ないがしろにするつもりはなく、上のスローガンにはこの理念も込められているのだ』というお考えなのでしょうか。しかしながら、一般の人や子供たちがこのスローガンを見て、そこに協働の理念が込められていると受け取るのでしょうか。とてもそうは思えません。スローガンは一人歩きするものです。このままでは、せっかく【めざす人の姿】に掲げられている「他者と協働する優しさ」の理念が忘れられて広まってしまわないかと危惧します。スローガンというのは、交通標語もそうですが、説明を見たり聞いたりしなくても、誰もがぱっと見て、理念の核心が頭にすっと入るべきものではないでしょうか。</p> <p>そこで、思いついたことがあります。最初の「文言の修正について」でも引用しましたが、【めざす人の姿】の一文に次の表現がありました。</p> <p>「人の心の痛みや思いを受け止めながらも<u>共に生き抜いていく喜び</u>を感じとることができる人たち」</p> <p>(修正案:「人の心の痛みや思いを受け止めて、<u>共に生き抜く喜び</u>を感じとることができる人たち」)</p> <p>この下線部の表現が素晴らしいと思います。これをスローガンにも生かせば良いのではないのでしょうか。</p> <p>即ち「21世紀をたくましく<u>共に</u>生き抜く人材の育成」</p> <p>こうすれば、本市の教育基本目標に「たくましさ」と「協働(優しさ)」の二つの理念があることが、一般の人にも子どもたちにもぱっと伝わって、市の教育事業もやりやすくなるのではないのでしょうか。</p> <p>なお、その際には、原案のスローガンに引きずられて「たくましさ」にかたより気味の14項の説明文も、13項にならって修正して頂く必要があるかもしれません。</p>		
--	--	--

6	<p>基本施策Ⅰ－② 確かな学力の育成</p> <p>全国学力・学習状況調査は、全国平均より上か下かで毎年大騒ぎをして、地教委・学校ともに無駄に多大な力を注いでいる。子どもたちは、テスト・プリント漬けで自分へのダメ出しをされ続けている。例え、一時点がよくても、安心などはしておれない。こんなことをいつまで続けるのか。早急に廃止するか、それが無理でも、抽出方式に変えるべきである。そういう意見を文科省に上げてほしい。</p>	<p>全国学力・学習状況調査の市及び各校の状況については、毎年、県と連携して分析を行い、各校において課題への対応策を講じております。今後も、本調査を活用して、子どもたちの学力向上・教員の授業力向上を推進して参ります。</p>	D
7	<p>基本施策Ⅳ－⑤ 学校における働き方改革の推進</p> <p>教員の世界でも、パワハラ、モラハラ、セクハラの問題は避けては通れない。「働き方改革」の項でとりあげるのが適切かどうかは別として、そういった人権尊重の押し出す表記を入れるべきと考える。</p>	<p>綱紀保持の研修については、防府市教育委員会が主催する管理職研修会及び各校の職員研修会において取り組んでいるところです。今後も、教職員が働きやすい職場環境づくりを目指していきます。</p>	D
8	<p>施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進</p> <p>この項がよいか分からないが、少人数学級が一步前進はしたが、まだまだ不十分である。35人でも多い。30人学級を早急に実現するよう政府に働きかけていってほしい。</p>	<p>提出されたご意見は、参考意見として取扱いさせていただきます。</p>	D
9	<p>教育の理念と若干の歴史的事実</p> <p>①「教育振興計画」の核心は、「人材育成」のように思われる。</p> <p>幕末維新期の山口県の庶民教育の拡大（寺子屋、郷校、私塾、計1,430校）についても「教育振興計画」は「人材輩出」「人材育成」の教育風土ととらえているのではないか。</p> <p>寺子屋数全国2位に見られる防府を含む</p>	<p>提出されたご意見は、参考意見として取扱いさせていただきます。</p>	D

<p>山口県の庶民教育の伝統は、むしろ庶民の共通教養基盤を拓げ、文化の受容と創造、諸能力の開花を保障するものであったと捉える方が理に叶っている。勿論明治以降の富国強兵策に基づく国民教育が国家目的に沿う人材の育成をすすめたことは周知である。</p> <p>教育は人格の完成を目的に一人ひとりの子どもの進路と能力の多面的・調和的発達を保障する事業である。したがって特定の階層や階級的利益に奉仕するものであってはならないことを明確に規定しているのが、憲法、1946年教育基本法である。</p> <p>国民の教育権、個人の尊厳、平和、民主主義、公費教育主義が公教育の原則であり、そのために教育が「不当な支配に服することなく、国民全体に直接責任を負い」、教員は“全体の奉仕者”として身分と待遇、そして教育上の自主的権限が保障されている。憲法を無視して決められた現行教育基本法は、これに反している。</p> <p>②1945年8月の敗戦を期して、日本の学校は現人神である天皇が「教育勅語」によって、直接人民を「教化」する場から「人格の完成（諸能力の全面開花）」をめざす「教育」の場として保障されることになった。教育と Education とは同義語になった。</p> <p>③culture は教養文化、教養科目は the liberal art ヒューマニズムの源泉である。当然 culture の獲得は interelligence（知能・理解力・思考力・知性）と深い相関関係に在る。アミチスは「クオレ」の中で「人類の文化の勝利のために学ぶ」と子どもへの父親の手紙で言わせている。</p> <p>「余は知的教育を望まない。知識を与えては余自ら青年を墮落させることになる。彼らが自己の遊戯的衝動にしたがって自発的に習得するものだけを青年に学ばせることが、余の最も好むところである。」ヒットラーの青年教育論である。</p>		
---	--	--

	④ 戦後の民主的な高校入試制度(小学区、総合選抜)は、アメリカの占領政策のもとで突然つくられたものではなく、一定の経験の蓄積(大正期、戦時下1940年代)のもとに、民主的教育改革の一環として実施された。		
10	学級規模縮小…35人以下学級を超え25人～20人学級を実現すること。	提出されたご意見は、参考意見として取扱いさせていただきます。	D
11	人権教育は、憲法に基づき、学校の隅々まで子どもの人権を保障し、子どもの意見表明権(子どもの権利条約)を保障することはもちろん、人権侵害を許さないことが大事である。文部省の人権教育は部落問題に偏しているが、これを克服すること。	提出されたご意見は、参考意見として取扱いさせていただきます。	D
12	学校教育の永遠の目的は民主的人格形成、主権者をつくることにある。 文化、文化力(自然、人文、社会、芸術、スポーツ)を心底大切・大事にする。	本計画に基づき、知・徳・体のバランスのとれた教育施策を推進して参ります。	D
13	教科書採択を民主的に行い、教員の選定権を尊重し、非科学的な教科書は決して選ばない。	教科書採択については、防府市教科用図書選定委員会を開催し、適正な教科書を選定しています。	D
14	コロナ禍、子どもの命と安全を守るために、PCR検査、家庭の生活保障、少人数学級の実施は、通学保障、教育を受ける権利を守るために必須の行政課題である。防府保健所の復活は急務である。	提出されたご意見は、参考意見として取扱いさせていただきます。	D